

教員活動状況報告書

提出日：令和 6 年 2 月 29 日

所 属： 獣医学部 獣医学科

氏 名： 森田幸雄 職位：教 授

役 職：

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

獣医公衆衛生学（人獣共通感染症学）（後期4年生、獣医学科）

将来獣医師となる学生のために、人獣共通感染症について理解させる。獣医師国家試験、公務員等獣医師就職試験に沿った授業内容とする。

獣医公衆衛生学（総論・食品衛生学）（後期3年生、獣医学科）

将来獣医師となる学生のために、公衆衛生行政における獣医師の役割、卒業生の2割が就職する公務員獣医師の仕事を理解させる。獣医師国家試験、公務員等獣医師就職試験に沿った授業内容とする。

獣医疫学（後期3年生、獣医学科）

疾病の流行の解析、疾病対策、食中毒対策のための疫学的手法を学ぶ。今後、卒業研究等、研究の形態や解析方法について、実践的に学習する。獣医師国家試験、公務員等獣医師就職試験に沿った授業内容とする。どのような就職先があるか、その就職先で獣医疫学はどのように使用されているかについての授業を行う。

科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
獣医公衆衛生学（人獣共通感染症学）	獣医学科	必	4	149名
獣医公衆衛生学（総論・食品衛生学）	獣医学科	必	3	135名
獣医疫学	獣医学科	必	3	135名

2. 教育の理念（育てたい学生像, あり方, 信念）

獣医公衆衛生学（総論・食品衛生学）・獣医公衆衛生学（人獣共通感染症）・獣医疫学

私は地方公務員の食肉検査所、保健所、衛生環境研究所、県庁の行政の経験をしており、

行政獣医師の公衆衛生上の役割を明確に学生に伝えている。実務家教員として獣医学科学生には実践経験をふまえた教育を志している。獣医師は食品衛生・公衆衛生・人獣共通感染症の専門家として行政に採用されていること、すべての行動は法律のもとに規定されていることを学生につたえている。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

獣医公衆衛生学（総論・食品衛生学）・獣医公衆衛生学（人獣共通感染症）・獣医疫学

獣医師国家試験の出題傾向を把握し、講義の中に、国家試験問題をちりばめながら、しかも、次の国家試験に出題されそうな重要なところを予測しながら、授業を実施している。実務家教員であるので、たくさんの感染症や感染症防疫事例やフィールド写真を保有している。また、海外の友人から送ってもらった写真・動画がある。日本は感染症のきわめて少ない幸せな国であり、世界にはまだ様々な感染症が出現していることを説明し、経済、人、感染症の流れは地球規模であること等、日本はグローバル社会の中の先進国であること。獣医師は世界的な視野で考えなければならないことを重要視している。特徴づける方法は、動画をふんだんに用いて、視覚にうったえる授業である。

アクティブラーニングについての取組

獣医公衆衛生学（総論・食品衛生学）・獣医公衆衛生学（人獣共通感染症）・獣医疫学

国家試験対策もあり、覚える授業が中心であるが、関連するニュースを見せて、感染症や食中毒の病因物質や行政対応を予測してもらうなど、アクティブラーニングを心掛けている。

ICT の教育への活用

獣医公衆衛生学（総論・食品衛生学）・獣医公衆衛生学（人獣共通感染症）・獣医疫学
PPT ファイル、動画を使用。課題は web の学理のアンケートをとおして提出。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

獣医公衆衛生学（総論・食品衛生学）・獣医公衆衛生学（人獣共通感染症）・獣医疫学

①教育（授業，実習）の創意工夫（A）

各回の授業の「まとめ pdf ファイル＝国家試験対策用 pdf ファイル」、「教科書の重要なところを示しながら、実例をあげる方法」で実施している。

②学生の理解度の把握（B）

対面授業であるが記憶することが中心の授業なので、各回に課題を提出させている。毎回の課題提出について、採点をしているが、理解度の把握は十分でないと思われる。未提出者には督促をしているが、なかなか提出をしてもらえないことが多かった。

③学生の自学自習を促すための工夫 (B)

授業で重要なところを覚えるのが中心の授業となるが、担当授業は獣医学でも応用の学問であり、課題は身近な生活にふんだんにあるので、新聞を読むことなどの情報収集等を含めた学生の自学自習を求めている。しかし、うまく取り組めていないと思われる。来年度は、課題をだすなど、改善したい。

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等) (B)

毎回行う課題の最後に、本日の質問やコメントを求めている。そこに記載されてものについては、返答をしている。しかし、質問やコメントが少ない。来年度は、質問やコメントを促すなど改善したい。

⑤双方向授業への工夫 (B)

覚える授業であるので、十分とはいえない。上述の④の質問も少ない。

※A (十分実施している) B (実施しているが十分でない) C (うまく取り組めていない)

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。

常に国家試験を意識した授業。「過去にはここが出題されました。」「私はここが皆様の国家試験ではでるのではないかと予想している」ということを、授業を進めながら、口頭やスライドで示していた。法律等、国家試験では出題されることも多いので、法律は臨床と離れた分野ではあるが、とても重要であり、獣医師法の下での獣医師であり、食品衛生法のもとの食品衛生監視員等、身近なことから法律の仕組みを教えた。

5.学生授業評価 (分量の目安：4～7行 (160字～280字))

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

10分間の休憩を確実に入れました。早めに講義資料を学理上にアップしようと思いましたが、うまくアップできませんでした。アンケートにより授業内容は変えることなく実施していきたいと思います。

②①の結果はどうでしたか。

3年生の授業ですが、前年度の学生と今年度の学生は異なる集団ですので、何の反応もありませんでした。

4年生ですが、3年生のアンケートをうけて変えましたが、反応はありませんでした。

③②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。

10分間の休憩を確実に入れました。早めに講義資料を学理上にアップします。授業内容は、より国家試験対策を意識したものにしようと思います。

6. 学生の学修成果（分量の目安：4～7行（160字～280字））

① 学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

3年生、4年生の授業であるので、国家試験対策のみならず、VetCBTを意識した授業を実施し、成績向上につとめたいと思います。

② 教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

授業評価はおおむね良好であると思われる。毎回の授業で配布している国家試験対策用のpdfまとめファイルの充実をはかりたい。

7. 指導力向上のための取組（FD研究会参加状況）（分量の目安：1～2行（40字～80字））

FD研究会には参加している。また、他の教員の授業を拝聴できる期間には、拝聴している。ただ、国家試験がある教科であり、「考える授業」より「覚える授業」なので、いかに興味をもたせ、覚えさせるかということは、通常のFDでは得られないことも多い。

8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

獣医公衆衛生学（食品衛生）、獣医公衆衛生学（人畜共通感染症）、獣医疫学については、2024年02月に実施された第75回獣医師国家試験対策を2025年度の授業に反映させる。また、獣医学関連師関連法律をしっかりと覚えさせ、時々の最新の情報を入手し、学生に考えさせる授業をおこなう。

9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ

各授業時に配布する「国家試験対策まとめpdfファイル」